

令和6年度 第3回名取市社会教育委員の会議概要記録

○日時	令和7年1月29日（水）午前10時00分より
○場所	仙台法務局名取出張所2階 会議室4
○出席者（7名）	菊池 晃子委員、菅原 朋美委員、和栗 幸一委員、本郷 一浩委員、齋藤 勇介委員、金野 智津委員、鈴木 雅行委員
○欠席者（3名）	伊藤 恵子委員、入間川 徹委員、久米 智美委員
○事務局出席者	教育長 瀧澤 信雄 教育部長 齋藤 正光 生涯学習課 課長 佐藤 徹也 課長補佐兼係長 菊地 栄一 公民館係長 柳館 麗美 図書館長 加藤 孔敬
○傍聴人	なし

会 議 概 要

1 開 会 進行：菊地課長補佐兼係長

2 あ い さ つ

瀧澤教育長

委員の皆様にはお忙しい中お集まりいただき感謝する。感染症の話で、市内の学校で現在学級閉鎖をしているのは1小学校1学級だけで、年が明けてから爆発的に広がる感染状況ではない。通常であれば2月が感染拡大する時期なので、中学校の私立の入試が明日あるので、感染予防に努めていきたい。

さて、コロナが明けてだいぶ経つが、社会教育に関する活動もほぼ平常に戻ったと思う。第2回目の会議で、上半期の報告をさせていただいた。その後の大きな行事としては、二十歳を祝う会を行った。対象の成人は899名、参加は608名の68%くらいの出席であった。実行委員会方式にして3回目となる。本日は、今年度の様々な取り組みの成果や課題を踏まえて、来年度に向けて三つの方針を提案させていただく。来年度皆さんのご意見を取り入れ、名取市の社会教育がますます充実発展できるように取り組んで参りたい。本日は忌憚のないご意見を頂戴したい。

鈴木議長

社会教育がいつから始まったのか、戦後かと思ったら明治の時代からあるらしく、明治のときは「通俗教育」という名称で、大正10年に「社会教育」に名称が変わったということは、社会教育は100年どころの話ではなく、ずっと続いている考え方である。地域の社会の発展と人々の学びの機会という根底は変わらず、時代にあったものに少しずつ変化して今に至る、そしてこれからも続いていくのが社会教育なんだろうと思う。社会教育のあり方について、時代の変化に対応したものを変えずに、大切にしていきたいものを委員の皆様と意見交換させていただきたいと思う。本日はよろしくお願ひしたい。

会議成立の確認

名取市社会教育委員会議規則第5条第1項により、委員過半数の出席を確認し会議成立を宣言。

会議公開の確認

名取市審議会等の公開に関する要綱第2条の規定により、公開の対象となる旨を告げる。

傍聴席を設けていたが、本日の傍聴者はなし。非公開の議事は予定していないが、非開示情報が含まれる内容となった場合、会議に諮り決定していくことを告げた。

3 前回会議の報告

前回会議の会議録を予め送付済みであり、一読されているということで報告に代えた。

4 議 事

名取市社会教育委員会議規則第3条第2項により、鈴木議長が議事進行

(1) 協議事項

ア.令和7年度名取市教育基本方針（案）について資料1

資料1について説明（説明員：生涯学習課 菊地課長補佐兼係長）

鈴木議長

ご質問ご意見等いかがか。

議長からであるが、家庭教育について名称を変えた背景について教えて欲しい。

菊地課長補佐

コロナ禍前までは各小学校で新入学説明会を行うときに家庭教育支援チームとして出向き、家庭生活等に関する講座を行っていた。コロナ禍になり、そういった機会が失われ、その代わりに家庭教育力を上げるために小学校入学前準備講座を企画し実施しているところである。小学校入学前準備講座については、小学校入学直前の未就学児を対象に学校に入学した後の生活習慣やお友達づくり等のプログラムを実施し、入学後もスムーズな学校生活を送れるような取組みを企画実施している。子育てサポーター講座については、家庭教育支援チーム員を養成する講座となっている。現状に即した形で名称変更をさせていただいた。

和栗委員

3-2（地域における多様な体験・交流活動の充実）であるが、年々参加者が減っているのが現状である。いかに興味を持っていただけて集めることができるかが一つの課題だと思う。先だっては、ゆりが丘公民館の新春のつどいを真似てやってみた。目標100名以上に対して一般の方105名であった。スタッフ60名等を含め177名となった。初めてだったので思うようにいかなかったが、餅つきは賑わった。

公民館祭が2月9日（日）に行われるが、見に来られる人は減っている。そこら辺をいかにフォローしていくべきか、いい案があったらご指導いただきたい。

鈴木議長

人集めに対して、事務局ではどのようなプランがあるのか。

菊地課長補佐

子供の減少や高齢化など課題があるが、土日にイベント行事を実施し、親子での参加や高齢者とのふれあいで多世代交流というものを推進していきたいと考えている。多世代交流の補助金を活用していただき、市を上げて各地域を応援しようと取り組み始めたところである。最近では誰

令和 6 年度第 3 回名取市社会教育委員の会議 令和 7 年 1 月 29 日（水）

でも気軽にどこでもやれるようなモルックやバッコーといったニュースポーツが盛んに行われている。和栗委員が「まなびフェスティバル」で実施していただいた昔あそびを若い世代に継承していただけると若い世代との交流になるのかなと思う。

斎藤委員

目標 3 の（2）のところで、参加を推進するというのは大切な視点だと思う。もう一方、子供の意見表明や子どもの権利など、子供たち自身が地域の住民として捉えて行けるような、特に今、地域の方に参画する意識が私の世代から下は特になかったところである。子供たち自身が地域の取組に興味を示し、意見をしながら一員として取り組んでいくことで、子供たちの親世代が子供たちと参画するきっかけになるのかなと思う。例えば、積極的な参加を推進しますというところに、積極的な参加・参画を推進します、という形で一つ加えるとより良いのではないかなと思う。

瀧澤教育長

子ども達の公民館活動をお話しをしてはどうか。

柳館係長

愛島公民館で、中高生がイベントなどの参画をしていると伺っている。レクリエーション大会では子供たちが愛島のクイズラリーを運営し、競技に参加するだけに集まってくる子供たちが企画から入っていくというところで、愛島児童センターのお子さん達を含めて、参加参画というところで、だいぶ子供たちの参加が多かったようである。お子さんを地域に取り込んでいくのは、1 回だけのイベントにとらわれず、常に地域の児童センターや小学校と連携しながら少しずつ積み重ねていくことでより多くの参加が出てくるのかなと思う。新春の集いであるが、今回お子さんが参加した公民館は、名取が丘公民館・愛島公民館・ゆりが丘公民館の 3 か所であった。今回大きく変わった名取が丘公民館は、お子さんの参加が 72 名であった。ゆりが丘公民館のお子さんの参加は 96 名の参加であったので、ゆりが丘公民館に次ぐ多さであった。名取が丘公民館は内容を一新して第 1 回目から子どもの参加が多かった。

鈴木議長

参加だとやや受け身、参画というと主体ということで、参加参画を併記したらというご提案であるがここで審議してよろしいか。

菊地課長補佐

ご意見として承り、内部で検討したい。

→教育基本方針、目標 3 の(2)を、「関係団体や企業、様々な知識・技術を持つ人材等の協力を得ながら、地域における教育・体験活動の充実を図るとともに、子どもたちの積極的な参加・参画を促進します。」に変更済み。

本郷委員

地域でサークル活動等が行われていて感じることであるが、活動というのはリーダーの情熱というのが大切のように思う。みんなが同じ気持ちで盛り上げていくというよりも、責任者の情熱があるかないかで変わらなうと思う。一度会長等になるとやめられなくなる。その方がやめるとなるとサークルはダメになる。そういう例が多い。私も 80 歳になるが、パソコン作業をやらなければならない状況である。生涯学習といわれるものは、やはり続いていかなければならないはずである。これが続くにはどうしたらよいか、教育委員会の指導なりが欲しい。行政は団体活動に入るな、と自主性に任せろと言うが、人が変わると次が続いていかないというのが現実である。そこ

に手を差し伸べる、また仕組みの運営の仕方について教育委員会や行政なりの指導をしてほしい。

鈴木議長

行政の介入が難しいということであるが、それを続けていくためのサポートなど、行政がどのくらい支援できるのか。直接介入ではなくても、情報共有する場を設ける形もあると思うが、事務局ではどうであるか。

菊地課長補佐

具体的にどういったことが大変に思っているのか、どういったところが難儀しているのかわからないところがあるが、例えば会計や事務の進め方がわからない、パソコンの使い方がわからないなど色々なケースがあると思う。個々のことに関して、わかることがあれば公民館職員がサポートを随時させていただいている。公民館職員に申し出ていただければ、アドバイスや協力ができることがあればご相談いただきたいと思う。

瀧澤教育長

直接の答えにはならないと思うが、サークル活動に限らず教育委員会関係でいうと、伝統芸能の後継者がいない、やる人が少なくなっていくという問題がある。どうしたら継続できるのか、伝統芸能の中には学校に出向いて子供たちに教えていただき、子どもと一緒に活動したり、そしてすそ野が広がっているが、すぐにその団体の拡充になるものではない側面もある。行政の関わりというところでは、きっかけを作る所を行政がやって、あとは自主的にというのも、例えば公民館で地域力向上講座というものをやって、その後自主的に活動を継続されているケースもある。名取こどもミュージカルも、スタートは当時の文化振興課が音頭をとって始めたのが自主的に続いているのもあるので、行政がどこまで関わるかが非常に難しいところだと思う。本郷委員が述べたように、メンバーの高齢化や会員の減少があって続かないということもあるので、うまく代替わりができればいいと思うので、そういったサークル活動の進め方などについてのアドバイスなど、具体的なことが浮かばないが何らかの形でしていければいいのかなと思う。

鈴木議長

他に質問ご意見等ありましたらお願いしたい。

なければ原案の通り承認でよろしいか。原案の通り承認とする。

続いて、令和 7 年度名取市公民館運営方針（案）についてお願いしたい。

イ.令和 7 年度名取市公民館運営方針（案）について資料 2

資料 2 について説明 （説明員：生涯学習課 柳館公民館係長）

和栗委員

問題は、区長が高齢化になっており、そのあとの区長の引き受け手がなかなか見つからず苦労している。公民館で区長を集めて指導していただき交流の場を広げていただくと助かる。うちの方の区長は体調を崩して急にできなくなってしまう、後任が見つかっていない。他の区の区長も高齢で 80 代の方が多く、若返らないと活動ができない状態である。他の地域はどうか。

斎藤委員

ゆりが丘の方だと 70 代～80 代の方が多いのかなと思う。団地によっては、私はみどり台だが、元々の年齢層が 40 代～50 代がメインになっている。自治会長は 80 代になっているが、私も区長として入っているのだから 40 代～50 代といったところも入っている。私が入った 30 代

令和6年度第3回名取市社会教育委員の会議 令和7年1月29日（水）

から10年くらい続けているので、成り手がいないというのはどこも変わらないところである。

和栗委員

育成方法があればいいのだが。

斎藤委員

役職ありきで、共働き世代と働く方の高齢化が進んでいるので、日中に活動をしていく時間的な難しさと日々の忙しさでどうしても無理ですという方は、年々増えてきている。

本郷委員

私の方の地域では、色々な物事を決める契約会という組織がある。契約会長と区長がいるが、トップに契約会長がおり、区長は市から報酬があるが契約会長は報酬がない。契約会長と区長の立場が難しい。他の地区ではどうか。

斎藤委員

自分の地区では、区長と自治会長は兼務でやっている。

和栗委員

実際問題として、公民館がこういうものにどのくらいまで立ち入ることができるのか。

瀧澤教育長

今の話したが、私も館腰小学校に勤務して初めて契約会というものを知った。前任の教頭先生から契約会を大事にしないとダメだと引継ぎを受けた。今までの感じだと地域の代表は区長というイメージであるが、契約会というのはそれぞれの地域で長年の歴史があると思う。ご承知のように、制度改正で公民館長が地域推薦から職員に代わった。それにより区長の位置づけが変わった。教育委員会で区長のことについて言える立場ではなく、市長部局の方で区長制度について検討している。区長制度の継続性の問題などがこの会議で出たということは何らかの形でお伝えしておきたい。公民館を運営していくときに、区長や契約会長の関係を大事にしていかなければならないので、そういった問題があるということを教育委員会で把握しておく必要がある。**和栗委員**

将来、生涯学習センターなるものを作る予定はないか。

佐藤課長

今現在そういった計画は出ていない。現状の体制で充実を図っていくということになっている。

瀧澤教育長

名取市の特徴としては、行政区すべてに公民館があり、公民館がそれぞれの地域の生涯学習の拠点施設になっている。理想を言えば、それを集約する生涯学習センターがあればさらに活性化できるかもしれない。名取の場合、それぞれの公民館の活動を充実させていく、生涯学習課が行政として関わって行くという形である。先ほど課長が述べたように現時点ではセンターを作る構想はない。

鈴木議長

他にいかがか。なければ、先程の教育基本方針案と公民館運営方針案について、承認いただいてよろしいか。原案の通り承認とする。

次にウ、令和7年度名取市図書館運営方針（案）についてお願いしたい。

ウ.令和7年度名取市図書館運営方針（案）について資料3

資料3により説明（説明員：図書館 加藤館長）

鈴木議長

質問・意見等あればお願いしたい。

興味であるが、前回会議のあとの 11 月 22 日に図書館で「読書で婚活」という企画があったが、その報告をお知らせいただきたい。

加藤館長

尚絅学院大学の松田道雄先生が「導き手」ということで開催した。1 月に読売新聞のみやぎインクツボで執筆されており、こちらの方で詳しくご覧いただけたらと思う。20 代～40 代の方 9 名が参加し、皆さん和気あいあいで行っていただいた。本の紹介を介して、趣味やこれからの仕事のことなど話しをしていた。最後に、冒頭で皆さんに配っていたカードにメールアドレスなどの連絡先を書いてもらい、気の合った方へ渡すようにした。その後は、結婚はまだはわかりませんが、交流が継続しているようである。プライバシーに関わってくるが、性別に関係なく友達からの交流が発生しているようである。婚活というキーワードであるが、広く多様性に取り組めたということが図書館的には成果だと思う。アンケートの中には、またこのような企画をやって欲しいとか、若者世代では仕事をしていて忙しく、義務教育では学べていない自分の学びたいことを可能であれば図書館で本を介して自分の知識教養を広められるのではないかという意見があった。アンケートではかなり良い評価をいただいた。

鈴木議長

令和 7 年度名取市図書館運営方針案について事務局の提案の通り承認してよろしいか。

原案の通り承認する。その他について事務局からいかがか。

（2）その他

事務局より、二十歳を祝う会についての概要報告とお礼、3/15（土）のなとりまなびフェスティバル 24 の開催案内。

鈴木議長

せっかくの機会なので、学校の状況などお話しいただきたい。

菊池委員

二点ある。先日学校で行った読書まつりだが、放課後かなりの生徒の参加があった。いつも図書館に本を借りに来る子ではなく、図書館まつりだから来ている子供たちが沢山いた。学校評価で地域の方々に評価を良くしていただいているが、その中で今後推進していきたいものの一つに読書習慣を身につけるといいうところを伸ばしていきたい。本を読む習慣が少なくなってきたおり、どうしても SNS に行きがちなお子たちに本を読むことの楽しさを教えていきたいと思う。

二つ目は、新しく赤字で入れていただいた、館内における読書や学習の場を充実するという点で、本校も大変お世話になっている。色々な機会を提供してくれるのはありがたい。マナー等も学べると思うのでとてもいい。今後ともよろしくをお願いしたい。

菅原委員

宮城県農業高校では、先日「ビジネスプラングランプリ」の全国大会に出場し、最優秀賞をいただいた。ホームページで当日の様様を YouTube で公開しているので、「高校生ビジネスプラン

令和6年度第3回名取市社会教育委員の会議 令和7年1月29日(水)

グランプリ」で検索すると出てくる。その他活躍目覚ましく、先日は和牛甲子園の全国大会で東京に行き、最優秀賞は逃したが優秀賞をいただき、本校で肥育した和牛がA5ランクに認定された。高校生同士の投票で選ばれる特別賞も受賞した。少し遡るが、秋には農業高校の生徒たちが発表する意見発表、プロジェクト発表の大会があり、こちらも全国大会に出場し、六つの部門のうち四つを本校が最優秀賞をいただいた。地域との交流だが、販売会等で色々な地区にお邪魔している。最近では、本校で育てた豚の豚肉をフレスコキクチ増田店で販売会を行い、大盛況だった。今後、2月に名取が丘周辺で農産物を販売する予定である。生徒の姿を見かけたら、お買い求めいただけると励みになる。図書館でも本校科学部が理科読でお世話になった。科学部の方は桜のプロジェクトということでそちらに力を入れている。塩害に強い桜の品種改良に力を入れ、「玉夢桜(タムユメザクラ)」という名前を付けて全国色々なところに植樹に向かっている。千本の植樹を越したので今度は二千本目指して日々活動している。今後ともよろしくお願いしたい。

金野委員

尚絅学院大学、大学の先生それぞれ専門がいるので、今後もご活用いただきたい。生涯学習センターだが、名取イオンの契約が切れ、長町に移転することになった。学生がボランティアをしたいけれど、よくわからない学生がいるので、学生のボランティアがあったらお声がけいただきたい。

鈴木議長

ご意見感謝する。以上で本日の議長を降りたい。

菊地課長補佐

他にいかがか。

和栗委員

まなびパスポートの達成者は何名ぐらいいるのか。

菊地課長補佐

今現在で10名ほどで、前回よりも2名ほど増加している。

他になれば、最後に齋藤議長代理に挨拶をお願いしたい。

齋藤委員

皆さんお疲れ様でした。会議の中で、皆さんの地域の実状と地域課題など共有できた。今回審議した令和7年度の方針を取組に代えて実施していく中で、主体的な学びの促進から地域力の向上だったり、つながりを発信して未来につながっていけるような取組になっていければと思う。

(議事一切を終了。鈴木議長、降壇。)

5 閉 会

11:18 終了 以上